

國權益ノ壓迫ニ依リ對北支作戰ノ
起ル場合（本秋冬ノ頃ハ起リ得ヘレ）

ノ何レヲ尚ハス關東軍トシテハ中央ト連繫ノ
上關内ヘノ神速ナル行動ニ依リ一與テ「熱河」ヲ
北支勢力ノ範圍外ニ救出シ少クモ鐵道建設
以前ニハ大岳カヲ熱河省自體ノ内部ニ進ム
ルコトヲ避ケ度希望ナリ之レカ為熱河省内ニ
ハ漸進的方法ニ依リ親滿親日ノ氣運ヲ醸
生セシメ特ニ熱河土民軍及同正規軍ヲ味
方タラシムルコトニ努メント企圖ニアリタリ

要スルニ軍トシテハ對北支問題ノ解決ハ對蘇
關内ヨリモ緊急事ト視察スレアリ
六、滿洲國政府及滿洲國軍隊

（大連總發堂高木納）

1) 滿洲國政府

本春三月上旬成立セル滿洲國政府ハ爾來五ヶ
 月ヲ經テ概テ順調ナル發達ヲナシツアルヲ認
 ヲルモ忽チ卒ニ名乗リテ上ケ爾來亦創業期ニ
 受ケル各種ノ難關ヲ經過シタルヲ以テ未タ不
 備ノ點多キハ勿論指導上一步ヲ誤レハ寧ス
 シモ國家基礎ニ可ナリノ動搖ヲ與フヘキ瑕瑾
 ノ伏在スルモノナリトセス以下其大要ヲ述ヘシ
 (政府内各部ノ現況ハ參謀長申送りニ記述
 セル筈ナルニ付御令ミアリタシ)
 1) 日人官吏問題
 滿洲國政府内ニ於ケル日人官吏數ハ當初
 百五十名以内(約一割五分)ニ限定セントノ意圖

有セシモ實際ニ於テハ事務連繫ノ不備ナリ
 レト就職熱ノ盛ナリシ爲五月朔ノハ四百名
 ヲ突破スルニ至リ且素質ノ劣悪ナルモノ混
 入セル爲諸種ノ障礙ヲ生スルニ至リ是ニ
 於テ主任幕僚等ヲシテ一部滿洲國日人
 官吏ト連絡シテ整理法ニ就中慎重審議
 ヲ遂ケ内外各種ノ壓迫ト策動トヲ排セシメ
 六月二十日約百四十名ヲ整理シ爾來滿洲國
 人ニ對スル日人約四分一ノ割合ヲ以テ今日ニ
 至レリ今後自然滿洲人側ノ就職者増加
 スルニ依リ結局日人官吏六分一程度ニ至ラ
 シノ度考ナリ

尚本整理ヲ機トシ不適者ノ降等又ハ

(大連滿鐵會社高木納)

入換ヲモ行ヒ以テ一般素質ノ向上ヲ計リタル
ト共ニ總務廳ノ事務能率ヲ高上スルニト
= 注意あり

(四) 滿洲人官吏ノ勦搖

日人官吏ノ整理ニ當リ均衡上滿人官吏ノ俸
給整理ニ手ヲ觸レタルト日人官吏多數突
如整理セラレタル狀況ヲ如實見タル爲滿
人官吏間ニモ若干ノ勦搖アリ然レトモ其眞
想ヲ説明スルニ從ヒ漸次諒解シ今中一段
落ヲ告ケレモノト認ム

別ニ直友フヘキ一事ハ大官カ舊制度時代ノ如ク
私腹ヲ肥シ能ハス而モ彼等ノ周圍ニハ舊日
羽白慣ニ從ヒ多數ノ同族集マリテ扶養シ

強ユルヲ以テ大官ハ到底經濟的苦痛ニ堪
ヘス之レカ為其職ヲ抛ツニ至ルニトナキカ是ナ
リ之レニ對シ目下辦法ヲ設ケ未然ニ救濟
ノ實ヲ興テクヘク考慮シツハアリ

(ハ) 滿洲國指導方針ニ就テ

滿洲國ハ帝國ノ國策ニ順應スヘキ獨立國トシ
テ支援スヘキハ軍ノ從來持セシ態度ナリ然レ
トモ此根本方針ハ未タ少シモ徹底シテアザサルノ
ミナラス日人官吏中ニハ徒ニ優越感心ヲ以テ
滿洲國人ニ對シ為ニ滿人ノ執務力ニ執意ヲ
消耗セシムルノミナラス大官ノ面子ヲモ傷クルノ
結果ヲ招徠シ國勢進行上ニ憂慮セラレタリ
是ニ於テ本職始メ各官モ機會アル毎ニ滿洲

(大連滿鐵會社高木純)

國政府ニ在職スル我官吏ニ此旨ヲ訓諭シ
 最近更ニ「日人官吏服勞ノ參考」ヲ配布シ
 其別ル處ヲ知ラシムルニ努メタリ將來モ此點
 ニ注意ヲ要スルモノト認ム
 又滿洲國日人官吏中ニハ滿洲國ノ獨立性
 尊重ノ意義ヲ採用シテ強ク業務ノ獨立
 性ヲ過度ニ意識シツアルモノアリ 指込上機
 微ノ關係ヲ有シ注意ヲ要ス
 目下行ヒツ、アル連絡會談ノ如キモ此弊
 害ノ現ハルルヲ防クコト其目的ナリトス然レ
 トモ過度ニ干渉スルノ害ハ結局離反ノ因
 ヲナスコトヲモ顧慮セサルヲ得ス尙滿洲國政
 府人事ノ決定ハ彼等ノ面子上同政府力

○
(三) 協和會之圖示件

自ら行フヘキモノナリトノ觀念ハ相當深クシ
 テ(假令其最後的決定ハ軍司令官ニ在リ
 トスルモ)内地新聞等ニ屢ニ現ハル、東京
 ニ於ケル詮衡過程ハ日滿人ノ心裡ニ不良ノ
 影響著ク與ヘアルヲ以テ將來共注意ヲ要スヘシ
 協和會ハ當初在滿青年聯盟ノ一部ニ
 依リ計畫サレシハ事實ナラズニ爾後滿洲
 國要人トノ往復、綱領、會則ノ洗練ニ
 依リ王道政治ノ實現化ト民族協和ノ
 二目的ヲ達スル為政府ト民衆トノ間ニ立
 テ而シテ直接政治軍動ヲナサシムルノ修養
 團體トシテ現ハレ執政ニ映ヨク名譽總裁

(大連滿登堂高木約)

トナリ軍司令官モ名譽顧問タルコトヲ諾シ
 鄭總理以下政府要人モ會ノ幹部ヲ占メ
 今ヤ一黨一派ニ偏セサル準政府機關トナレリ
 従テ將來國內ニ對スル教化宣傳ハ主トシテ
 協和會員ニ托スルヲ至當トシ同會ニハ有力
 ナル宣傳部ヲ設ケ官費ヲ給シテ活動セシム
 ルト共ニ軍ニ於テモ之レヲ利用スル如ク協定
 シテノ既往ノ作戦途隨ノ宣傳ニ於テ此
 等ノ會員ノ獻身的活動ヲ見タル例ニ乏シ
 カラス

(ホ) 將來ニ関スルニ三件

滿洲國ハ早晚君主國カ共和國カラ定メ
 サルヘカラサル時期ニ到達スヘシ之カ爲立法

院ヲ速ニ完成スヘキヤ別ニ建國大會的ノ
 モノヲ設クヘキヤハ一ノ問題ナルニ立法院ノ組
 織ニ餘程注意セサレハ日本ノ議會會日ノ如ク
 弊害ヲ醸スエトナレトセス蓋テ口成ルヘク
 其設置ヲ遲クレ却テ協和會ヲ利用シ
 テ輿論ヲ道子クテ可トストノ議論エアリ引
 継中御研究アリタレ
 滿洲國ノ指導ヲ育成ハ軍ニ於テ特務部
 ヲ諮詢機關トシテ實施スヘキ組織ナルニ
 將來滿洲國内ニ有ナル政治家充實
 スルニ至ラハ同政府ト特務部トノ間ニハ
 一ノ對立關係ヲ生スル患ナレトセス之カ弊
 害ヲ防カレ為ニハ未然ニ兩方ヨリ連絡ヲ

(天達高木納)

密ニシ要スレハ諸會議ニハ彼此人ヲ派遣セ
 シタル等諸種ノ方法ヲ講スルノ必要アリト認ム
 何レニシテモ產業開發ノ實行ハ一度ハ滿洲政
 府ノ手ヲ經テ行フノ形ヲ取ラサルヘカラサルヲ認見ユ
 承認問題ノ解決ヲ急進ニスルコト四頭統一
 完成ノ際其官制ノ統監政治的色彩ヲ
 帶サルコトハ滿洲國人ヲ安堵憤發セシメ
 日本側ノ決意ヲ中外ニ示シ又諸種ノ
 揣摩臆懼ヲ防キ結局滿洲國ノ安定
 ト開發トヲ速ナラシムル最捷路ナリト認ム
 此點既往具申セル所ト變化ナシ
 (2) 滿洲國軍隊
 滿洲國軍隊ハ舊學子良正規軍ノ歸順

セルモノ(事變ト殆ント同時ニ歸順セルモノニシテ)
 張海鵬軍、于芷山軍ノ如キ)、滿洲國政府
 又ハ省長ニ於テ組織セルモノ(吉林軍又ハ靖安
 遊撃隊ノ如キ)並ニ討匪ノ結果歸順セル
 モノ(黑龍江省軍ノ一部、奉天省軍ノ一部
 ノ如キ)ノ數種ヨリ成リ目下其數十、二万ニ
 達シ稍々形態ヲ備フルモノ八九万ヲ算スルモ何
 レモ組織不完全、結束力ニ乏シク黑省騎兵
 ノ一部ヲ除キテハ作戦行動ニ際シテ信頼シ得ヘ
 キモノ甚稀ナリ殊ニ于芷山軍ノ如キハ討匪
 行動中屢々部下逃亡シ却テ敵勢ヲ増
 セルノ傾アリ

現在各省警備司令ノ許ニ區分セル兵力次ノ如シ

(大塚高木稿)

| | | |
|--|---------|------|
| 地方 | 兵力 | 警備司令 |
| 奉天省 | 一万五千 | 于芷山 |
| 吉林省 | 四万—四万五千 | 吉興 |
| 黑龍江省 | 三万五千—四万 | 程志遠 |
| 洮遼地區 | 一万 | 張海鵬 |
| 興安省 | 二千五百 | |
| 軍政部顧問ニ於テハ豫テ滿洲國軍ノ 裁兵改編ニ志シアルモ自下治安回復ノ過渡 期ニ於テ急遽裁兵ヲ行ハレカ却テ彼等ノ動 搖ヲ招キ匪賊ヲ増シ收拾困難ナル状態 ヲ呈スヘキヲ想ヒ三期ニ亘ル計畫ヲ立テ 徐クニ改編ヲ策スルコトトナレリ | | |
| 滿洲國軍ノ素質上述べ如クナルモ | | 利 |

用宜シキヲ得ハ或ハ密偵、偵察ニ或ハ誘導
ニ或ハ一方面ノ警備ニ我軍對匪作戰ノ協同
者トシテ相當ノ効果ヲ發揮セシムヘキ餘地
尠カラズ殊ニ黑龍江省騎兵支隊ノ如キハ
今次我對烏占山作戰ニ於テ我騎兵旅
團ニ劣ラザル堪銀力ヲ現ハシ有力ナル協
同動作ヲナセリ又當初信賴シ難キ滿洲
國軍トモ同一方面ニ協同行動スル數回ニ亘
ル時ハ自然ニ我軍ノ感化ヲ受ケ結束力ト
敢為性トヲ増シ作戰ノ終期ニ於テハ著シ
ク効果的トナルノ常ナリ
總シテ「日滿融和ハ軍隊ヨリ」ナル標語ハ今
後モ兩軍間ニ徹底セシメ以テ作戰並ニ

(大塚高水稿)

治安上ハ素ヨリ進シテ滿洲國ノ統治並ニ同
 發上貢獻セリルニト大ナルヲ期シツアリ
 過般來企圖セレ 隸下師團等ノ參謀長ヲ
 會同スル主目的ハ實ニ軍隊ノ滿洲國ニ関ス
 ル認識ノ向上就中日滿軍隊ノ協同動作上
 ニ資ヒトスルモノニ存シ今後ト雖最近ノ機會
 ヲ捕テ之レカ實現ヲ計ルヲ急務ナルヲ感心ス
 ルモノナリ

七、特務部ノ業務ニ就テ
 特務部ノ要員ハ人選ノ關係上二月以來
 四五ヶ月ニ亘リ主要部員ヲ充足シ得ス為ニ
 業務ノ進捗遅々タルモノアリシカ七月中旬頃
 ヨリ略人員備ハリ今ヤ一名ノ缺員ノ残ス外